チェンマイ短信―６（関東支部チェンマイ同好会）

コンドミニアムのすぐ近くにセンターンと呼ばれる都市ホテルとスーパーなどの商業施設を複合した大型のビルがあり、通常の買い物や両替、携帯のチャージ、昼食などはすべてここで済ますことができます。麺やタイ式テイクアウト料理などのフードコートもあり、スターバックスやケンタッキーフライドチキンなども入っている。朝飯用の食材、くだもの類、野菜などは TOPS というスーパーマーケットで購入できる。定価が表示され新鮮な食材が豊富にそろっていて安心して買物ができ、私のお気に入りの店だ。もちろん、旧市街地にあるワローロット・マーケットも悪くないが豚や鶏の肉や魚を台の上にむき出しで並べてあり値段も安い。指差すと切り身や量り売りをしてくれるが、まだそこまで現地慣れしていないので食材を気楽に買うには、今少し時間がかかりそうだ。

（チェンマイのハイライト―お花祭りにいってきました）

チェンマイの花祭りは正式には[40th ChiangMai Flower Festival]と呼ばれ今年で 40 年目、ということは第 1 回は 1976 年から始まったお祭りである。1296 年に創設されたチェンマイの都の歴史からするとまだまだ日の浅い行事である。LSC チェンマイステイのまとめ役で且つ、写真の名手である安楽さんのアドバイスに従い、パレードの出発地点のナラワット橋に向かうことにする。

40th ChiangMai Flower Festival の会場ゲート

LSC メンバーの集合場所「レモンツリーレストラン」前に朝 8 時に集まり、ソンテイオを停めて乗り込む。パレードの出発点は交通規制があるようでワローロット市場の近くで降ろされてしまった。そこから北川さんに先導されて徒歩でナラワット橋まで歩き、その近くでパレードがスタートするまで待つことになった。

お花祭り祭りのハイライトは生花で装飾されたフラワーフロート、日本でいう山車（ダシ）にあたるが人が引くのではなくすべて車で動かす。まあ、言ってみればデコレーションを施した花電車の自動車版でその上に着飾った美女たちが花を添える。

ミス・チェンマイとミス・フローラルビューティ

午前 8 時からナラワット橋でオープンセレモニーが行われた後、ゆっくりとパレードがスタートする。出発地点には桟敷席が設けてあり、外国の観光客がぎっしりと席を埋めてパレードを鑑賞している。

パレードのコースは旧市街地の大通りをターペー門まで進み、門の前から左へお堀に沿って進む。プアックハット公園が最終地点となり約 5km のコースである。行進する山車は数十台、それぞれにタイで咲くきれいな生花で造形と意匠を凝らしてあり、とても見ごたえのあるものだ。

まず、チェンマイ市長と並んでミス・チェンマイとミス・フロラル

ビューティがパレードの一番前を歩く。続くフラワーフロートは象を模ったもの、パゴダを載せたもの、竜を主題にしたもの、王様の肖像を花で模したものなどいろいろなフロートが登場する。

それらに合わせて鼓笛隊やブラスバンド隊、少数民族の踊りなどがゆっくりと歩を進める。華やかなパレードに観客から拍手が起こり美女たちが手を振りながらほほ笑み返す。

このパレードは、写真撮影にはとても協力的で立ち止まってにっこり笑ってくれたり、山車（フロート）の横に張り付いて記念写真を撮っても大目に見てくれるのがいかにも南国らしい大らかさを感じる。

パレードの先頭を歩く市長と
ミス・チェンマイ/ミス・ビューティ

時にはパレードの中に入り込んで、おどけて一緒に行進するアメリカ人の観光客もいたりする。2 月とはいえ 11 時ごろになると日差しがきつくなって美女たちのお化粧崩れを直すメイクさんやパレード隊に水やジュースを手渡すサポーターたちも忙しくなる。聞くところによると最終のゴールに着くころは行進しているメンバーは暑さと汗でヘロヘロになってしまうそうだ。

写真を撮るためにスタート地点から約 400mほど離れたターペー通りの歩道に陣取って、近づいてくる花のフロートと美女たちを写すことにした。素晴らしい被写体を前に重たい思いをして日本から持ってきた一眼レフが故障で動かず、泣く泣くバカちょんデジカメでの撮影となってしまったのは残念だった。拡大表示をした場合、画像の切れ味が悪いのは大目に見てください。